

## ★森のおはなし探検隊★

9月のテーマは『どうぶつのまねっこをしよう』

お子様から大人の方まで楽しめるプログラムを月替わりで開催中の、★～森のおはなし探検隊～★

今回のテーマは、「どうぶつのまねっこをしよう」です。楽しくみんなで、どうぶつのまねをして、いきものの不思議を体感します。

みんなで楽しく遊びませんか？

たくさんの参加をお待ちしています！

開催日時： 9月11日(日) 13:00～14:00

集合場所： 子どもホール2階

参加費： 無料(別途要入園料) 事前申込不要

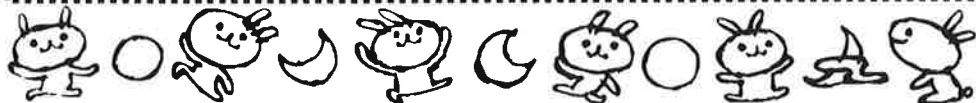
## ★動物のおじいちゃんおばあちゃんに 会いに行こう！！★

敬老の日に合わせて、園内の長寿動物の紹介をするガイドツアーを開催します。

園内の長寿動物の獣舎前に9月3日～19日まで紹介パネルを設置しています。

開催日時： 9月18日(日)、19日(月祝)  
15:00～15:30

集合場所： ロバ舎前集合



詳しくは、HP もしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問合わせ下さい。

# 森の仲間たち

「到津の森公園」公園事務所  
北九州市小倉北区上到津 4-1-8  
Tel 093-651-1895 〒803-0845  
<http://www.itozu-zoo.jp/>



# 森のお便り 9月号 2016年

発行・編集 「到津の森公園」「森の仲間たち」16年9月1日発行 通巻163号

# 動物愛護デー

## 到津の森公園

9月22日(木・祝)

9:00～18:00

《入園料・無料》



子どもから大人まで入園料が無料でお楽しみいただけ、営業時間を1時間延長して午後6時まで開園。

動物愛護センター、北九州市獣医師会などによるイベントも多数開催されます。

ゆっくりと園内でお過ごし下さい。

※駐車料金、遊具利用、エサやりは通常通り有料です。

## ☆国際レッサーパンダデー☆

「国際レッサーパンダデー」にちなんで、絶滅危惧種であることや生態について解説します。

開催日時：9月17日(土) 15:30～

場所：レッサーパンダ舎前

天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承下さい。  
詳しくは、HP もしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問合わせ下さい。

# 花暦 長月

初秋の園内「郷土の森」は、クスノキ・シイノキなどの大きな常緑樹に覆われ、薄暗く・・・と思いきや、寿命を迎えたり、危険防止の為やむなく処理されて、ぽっかり空間が広がったりします。それでも園内の半分くらいには低くササ・ヒサカキ等が茂り、昔からの暗い森のイメージを残しています。

さて、再オープン(2002年)頃は、この森のはずれ部分に、たくさんの野草の群れが取り囲んでいました。ビオトープから上り、「ポンポコ庭」(タヌキ)、「ムササビの森」「こもれびの森」あたりは、ヤブランが群れ咲き、「ヤブランの小径」と名付けようという声もあがった未舗装のプロムナード(散歩道)なのでした。

ヤブランはラン科ではなくユリ科(現キジカクレ科)で、30~50cmの茎に穂状に薄紫の小花をたくさんつけます。葉は30~60cm、地下に這う茎はないので一株ずつの株立となります。

ヤブランによく似て、葉は20~30cm、花茎10~20cmに、やや白い花をつけるのはジャノヒゲ、葉を触るとざらざらしている為、両者を間違える事はありません。種子は碧色で大変美しく、和漢薬にも使われます。

これらによく似て大型、葉が30~60cmにもなり白い花をつけるのはノシラン。本来海岸沿いの林下によく見られるものですが、園内にはたくさん植栽されています。

さらにヒメヤブランという可愛い仲間もあります。草丈は10センチほどで薄紫の小さな花はまばらですが、根元から水平に這う枝で草地に生え広がる元気者。整備に伴い、イヌホオズキやヒルガオ等の身近な野草達はめったに見かけ無くなりましたが、その分明く爽やかでロマンチックな散歩ゾーンとなっています。

野草園でもヤブランより遅れてよく似たキチジョウソウが咲き始めます。

大変縁起の良いとされる花もお楽しみください。

文：花咲くおばさん

## 森のなかま・フクロテナガザル

### 新しい命の誕生

2015年12月24日。クリスマスムード一色の園内で、フクロテナガザルのクロミが、落ち着きなく動き回っていました。やや興奮状態のクロミを寢室に帰し、固唾を飲んで見守っていると、しばらくして、体重500グラムほどの小さな命が誕生しました。しかし、クロミは、赤ちゃんの世話をする様子がありません。そこで、赤ちゃんをクロミから離し、飼育員が母親代わりをする「人工哺育」を行うことにしました。赤ちゃんの姉にあたるアロナに続き、二度目の人工哺育。少し離れた建物で人工哺育を行った前回とは違い、今回は常に両親から見える場所でお世話をしました。毎日顔を合わせることで親子関係を維持し、出来るだけ早いうちに一緒に暮らせるようにするためです。

フクロテナガザルをはじめとする霊長類の子どもは、家族との生活の中で様々なことを学びます。努力の甲斐あってか、赤ちゃんとの関係は良好で、出産直後は赤ちゃんの世話をすることができなかったクロミも、少しずつ母親らしい仕草を見せるようになりました。インドネシアの言葉で「宝物」という意味の「ハルタ」と命名された赤ちゃん。両親からいろいろなことを学び、健やかに成長してほしいと思います



飼育展示係 福井 智太